

トルコ金融政策（2020年2月）

0.50%ポイントの利下げを実施

2020年2月20日

6会合連続の利下げ

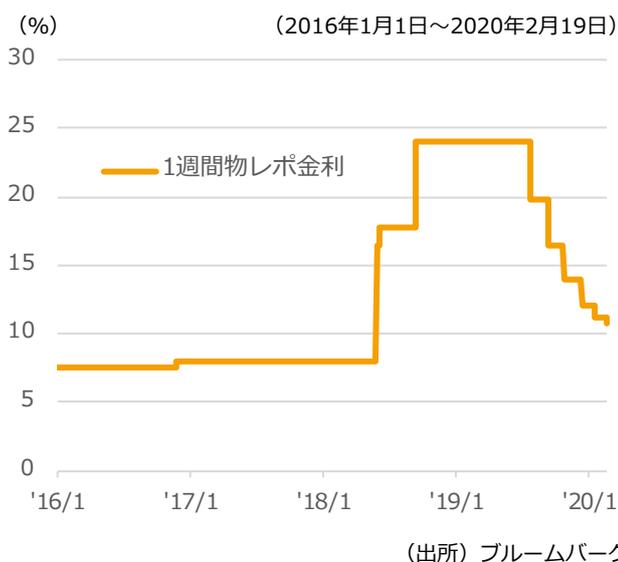
トルコ中央銀行は2月19日（現地）、政策金利（1週間物レポ金利）を11.25%から10.75%に、0.50%ポイント引き下げることと決定しました。市場予想と同じ利下げ幅であったことから、市場への影響は限定的となっています。

前回の会合に続きトルコ中央銀行が利下げを実施した背景には、今後インフレ率が鈍化するとみられていることやエルドアン大統領の利下げ圧力などが考えられます。先日発表された1月のインフレ率は前年比12.15%となりましたが、トルコ中央銀行は2020年末と2021年末のインフレ予想をそれぞれ8.2%、5.4%としていることから、今後追加利下げを行う余地があると考えられます。

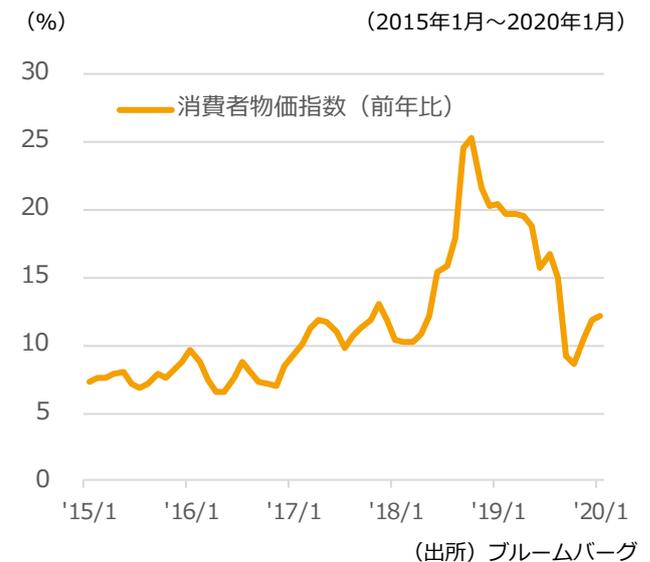
足元のトルコ・リラは、シリア北西部においてトルコ軍とシリアのアサド政権軍との軍事衝突が激化していることを背景に軟調に推移しています。アサド政権軍に関しては全土の掌握を急いでいるのに対し、トルコ軍に関しては難民流入の抑止などを名目にシリア北部で「緩衝地帯」を広げる狙いがあり、軍事衝突が発生しています。また、トルコがロシアから購入したミサイル防衛システムをめぐり、米国議会は対トルコ制裁法案を可決しており、米国がいつでも制裁を発動できることもトルコ・リラの上値を重くしています。

外部環境面では、新型コロナウイルスの感染拡大に留意する必要があるものの、世界の多くの中央銀行が緩和的な政策を維持していることを背景に、相対的に金利の高い新興国市場への資金流入が期待されることは、トルコ・リラを下支えすると考えています。

政策金利の推移



インフレ率の推移



当資料のお取り扱いにおけるご注意

- 当資料は投資判断の参考となる情報提供を目的として大和投資信託が作成したものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書(交付目論見書)」の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。
- 当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。また、記載する指数・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。